

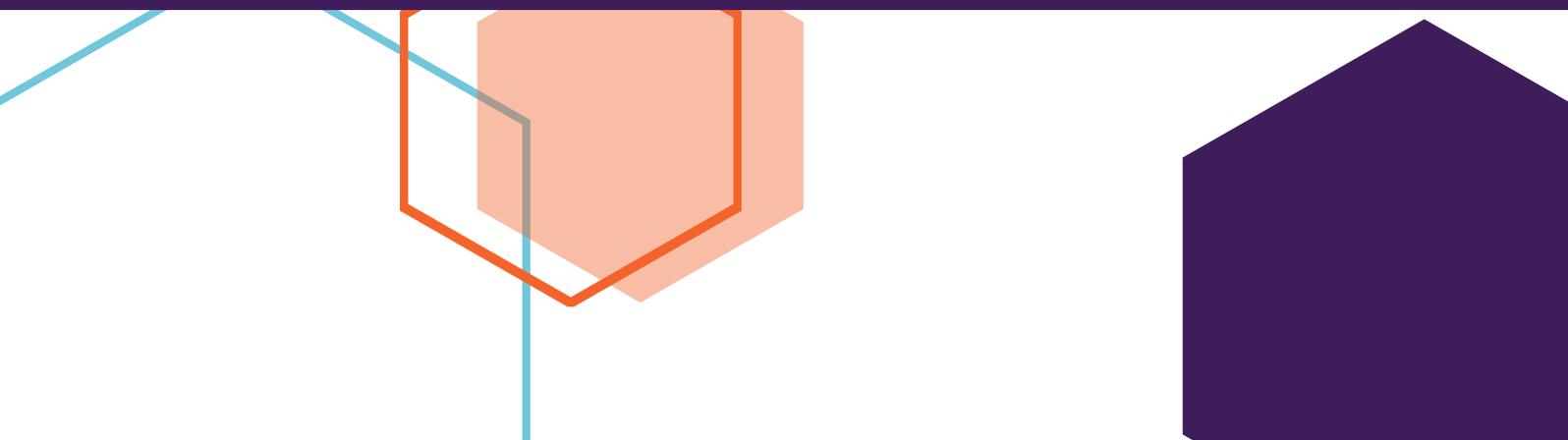


第2層協議体

ミニふれあい会議 清水口第四住宅

清水口小学校区

これまでの地域ネットワークふれあい会議を通じて令和元年に住民にアンケートを実施していた。影響によりコロナの感染拡大の影響によりニーズは把握していたものの、活動が止まってしまっていた。
3年後に、再び活動への意思確認をし、助け合い活動へ向け準備が始まった。





第2層協議体

参加者 5号棟岡田様、13号棟窪岡様、5号棟古谷様ご夫婦

社協 秋本、鈴木、中田

清水口小学校区・清水口第四住宅

・ちよい困活動について

令和元年に住民対象アンケートを実施し、住民の困り事などは把握していたものの、コロナ禍や中心となっていた方の急逝が重なり動き出せずでした。住民の減少と高齢化が進んでいるため、自分たちでできることを取り組んでいきたいと考えている。

・今後の取り組みについて

本当は来年度から自治会で取り組みたいと考えている。そこに向けてまずは各号棟に参加者のいる楽々会で試験的に取り組み、活動のモデルを作っていくという方向性となった。

・次回以降の活動

楽々会が来月から再開するのでそこでちよい困活動について話をしてみるとのこと。SCも適宜訪問し様子を伺ってみることとした。

岡田氏より新型コロナウイルスの流行状況などを鑑みながらちよい困活動について話あっていこうと思っていることを確認できた。



自治会で行うと嫌がる人もいるという心配はあるのではないかと心配されていた。SCより試験的な取り組みを経て、活動の枠組みを作ることができれば後任者への負担もそこまで大きくならないのではないかと提案した。

第2層協議体



7/13(水) 楽々会サロン訪問



サロン終了後

・ちよい困活動について 岡田さんより

ちよい困活動は自治会として始めていきたいと考えている。すでに自治会長には話しているが、自治会の会則を変えないと活動するのは難しいというのが現実。また今度自治会に向けて話す機会があるので周知していく予定としている。楽々会の方にはまだ話していないのでこれから話をしていくつもりでいる。

上記のお話受け、鈴木より

今後自治体や楽々会での説明、活動の始動にあたり、社協からの情報提供や出前講座など必要なことがあれば適宜支援させていただきたいとお伝えした。

・今後

サロン訪問等で住民の方にも助け合い活動をさらに周知し、ちよい困活動の支援を行う。

岡田さんに適宜進捗確認し、必要に応じてサポートしていく。

・ちよい困活動の進展

・助け合い活動の周知

・住民との顔つなぎ

上記の目的でサロン視察することとした。

第2層協議体

清水口小学校区

9/14(水)楽々会 訪問

今回は8月10日に急逝された楽々会代表の岡田さんを偲ぶ会。久しぶりの全員参加となった。

社協より岡田さんとちよいん活動について相談を進めていたことをサロンにてお伝えした。連絡先の窪岡さんへ鷹の台サポートクラブの資料をお渡した。

今後のサロンの活動内容を検討したり、事務的な手続きの途中であるため様子を見ていく。また、地区の個別的な課題があった場合には相談させてもらいながら実際に困っている人たちの様子をお伝えすることとする。



SCの動きや考え方、他の連携

スポーツ、地域活動、自治会など多岐に渡りご活躍されていたため、大きなショックを受けている方々が多く見受けられた。

一方、改めて人と人との繋がりの大切さを実感したり、遺志を継いで楽々会や団地を良くできないかと考えるきっかけにもなったように見受けられた。サロン参加者の団結力の強さを感じた。

第 2 層協議体

